

こころ育てる絵本との出会い

マクちゃん通信

2020 12 - 2021 1 vol. **65**



ふくざわゆみこ



ふくざわゆみこ プロフィール

東京生まれ。絵本作家。

主な絵本に「ぎょうれつのできるパン屋さん」「ぎょうれつのできるチョコレート屋さん」「ぎょうれつのできるスパゲッティ屋さん」他、ぎょうれつのできるおいしいえほんシリーズ（教育画劇）、「おおきなクマさんとちいさなヤマネくん」シリーズ（福音館書店）、「モモンガのはいたつやさん」シリーズ（文溪堂）、「やさいもぐもぐ」（ひかりのくに）、「もりのかばん屋さん」（学研プラス）、「はりねずみのおいしゃさん」（世界文化社）、「くぬぎのもりのりすのがっこう」（アリス館）などがある。

好きなスパゲッティは、トマトのスパゲッティ。

ふくざわゆみこのHP:『アトリエふゆ』 <http://atelierfuyu.com>

絵を描くのが好き。
絵本の中でたくさん寄り道しながら
自由に楽しんでもらえたら嬉しいです。

絵本原画展開催

令和2年11月21日(土)～令和3年1月24日(日)

原画展示絵本

「ぎょうれつのできる

スパゲッティ屋さん」(教育画劇)
「困ったときは、お互いさま!!」が
合言葉。ネズミ一家のスパゲッティ
屋さんへようこそ!シリーズ最新刊。



「ぎょうれつのできる
チョコレート屋さん」(教育画劇)
いつも一緒にシマリスちゃんとキタ
リスくん。ある日、ふたりは森で
チョコレート職人のお兄さんに出会
い……。チョコで森を幸せに!

冬のギャラリーでは、見ているだけで幸せな気持ちになれる、
ふくざわゆみこさんの人気シリーズから『ぎょうれつのできるチョコレートやさん』、
最新作『ぎょうれつのできるスパゲッティやさん』をご紹介します。

ふくざわゆみこ先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

小さい頃から絵を描くのが好きで動物や虫や鳥を主人公にお話も作っていました。ありがたいことにそのまま仕事に。

子どもの頃を知っている人たちに「昔からやっている事変わらないねえ」としみじみ言われます。

画材は何を使っていますか？

パステル、色鉛筆、アクリル絵の具、カラーインク等々。紙は丈夫なコットン紙です。かなり何度も塗り重ねるので薄い紙だと穴が…。作品によってCGで仕上げる事もあります。

今回、原画を展示する絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

『ぎょうれつのできるチョコレートやさん』

性格と見た目が正反対、でも好きなものは同じ。主人公たちの気持ちを主軸に描きました。このふたり、仲良しすぎてちょっと恥ずかしかったです。

『ぎょうれつのできるスパゲッティやさん』

食べるとすぐに眠くなる、起きるとお腹が空いている…。日々の私そのまんまが描かれております。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は？

「おおきなクマさんとちいさなヤマネくん」(福音館書店)

カラー漫画形式のデビュー作を絵本の形に描きなおしたものです。漫画も含めて色々感慨深い作品です。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

絵にした時に楽しそうな画面になるように。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

マイペースでのんきな感じを…。うーん。うまく言えません。色々な個性がマイペースに暮らしている世界がいいなあと思っているのでそれを感じ取っていただけたら嬉しいです。

今後どのような絵本を描いていきますか？

色々な木の玩具、性格違うリスの子達、だまし絵のような迷路の家などを描く予定です。楽しみです。くいしんぱうたちのお話

もまた描きたいです。

ご趣味についてお聞かせください。

お絵かきが好きです。絵を描く仕事の合間にちよつと休憩、と落書きを始める事が。ドライブや、旅行も大好きです。温泉。大浴場に露天風呂…。風呂上りに夕食の時間までおさんぽを少し。最高です。

好きな言葉を教えてください。

言葉ではないですが「閑」という漢字が昔から好きです。寝転がって、そよ風や遠くの鳥や蝉の声に包まれてぼーつとしている時間、そんなイメージを持っています。そのまま寝てしまうのもいいですし、「さーて、」と伸びをして動き出すのもいいです。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

時折感想などいただくと、ストーリー進行と直接無関係な箇所の隅この絵や、主人公じゃないキャラに注目する方がいらつやいます。たくさん寄り道しながら読んでいただけているなあと。自由に好きなように、少しでも楽しんでいただけたら嬉しいです。

ふくざわゆみこ先生、ありがとうございました！

ふくざわゆみこ先生の サイン入り絵本を3名様に プレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。

あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館

ふくざわゆみこ サイン本プレゼント係

締め切り 令和3年2月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『ぎょうれつのできる
スパゲッティやさん』
(教育画劇)





竹迫 祐子

ちひろ美術館(東京・安曇野)主席学芸員

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団 事務局長

特集 / パンデミックの 中で

内なる自分と世界を繋ぐ・絵本

不登校で家に引き籠っていた高校時代は、小説、児童文学、絵本を乱読して過ごしていました。学校には行けなくても、図書館には行ける。郷里、被ばく地の広島には、当時日本では数少ない児童図書館もありました。

不登校で引き籠っていたからという訳ではありませんが、コロナで自粛、家に籠らざるを得ない日々も、不謹慎の誹りを恐れず言うなら、さほど苦痛でなく、ZoomやTeamsといった便利な道具でWeb会議もできれば、本来なら参加が難しい場所や日程での講演会や講座にもオンラインで参加できて、ありがたい側面もあります。

とは言え、美術館としては本場に辛い。臨時休館で中止になった展示もあり、再開しても、感染状況は続いていますから、なかなか来ていただけない、観ていただけない。お客様とお会いできない日々が続いています。そうした現実、私たちがの上にズシリと重くのしかかります。いくら都合がよい側面があったり、これまでの在り方を問い直すきっかけになったとしても、社会としては決して健全な状況ではありません。見えないウイルスの恐怖は、人の不安を掻き立て、その挙句に他者への攻撃にすり替わって、分断と差別を増幅させていく、その現実も国内外で目の当たりにします。

多くの時間をひとりで過ごした高校時代、何かにつけて開いた本は『赤毛のアン』と『あしながおじさん』。アンもジュディも、辛い現実を生き抜く想像力と創造力を持っていました。

絵本は当時、今日ほどに多彩なものではありませんでしたが、時まさに「絵本ブーム」と言われはじめた時期。日本の創作絵本も活発になり、地元の書店・丸善では絵本原画展が行われるようになっていました。そこで出会ったのが、いわさきちひろや谷内こうたなど。子どもの心の内側を、絵本があんな風に描くことができるということ、衝撃でした。谷内こうたの『なつの あさ』は、自らを閉ざす私を、大きな空が広がる真夏の丘へと引っ張りだし、外の世界に繋いでくれました。

一方で、現実的、かつ、強引に外の世界に引っ張りだしたのは、高校三年生の時の担任。毎朝、自宅に迎えに来られました。その時は、恩知らずにも、自分の世界を壊されて迷惑千万に思いましたが、今があるのは、家族と共にその先生のおかげ。思い返せば、登校の道々、色々なことを話しました。

絵本が心の扉を開けてくれるとしたら、生きる現実を伴走するのは、「人」。そして、人は変われます。

私のおすすめ絵本

『くろいの』

田中清代／作
偕成社



子どものなかの「孤独」と不思議な生き物は、普遍的なテーマです。

『あめだま』

ベク・ヒナ／作
長谷川義史／訳
ブロンズ新社



人や物の心の声が聴こえる魔法のアメ玉が、引っ込み思案の少年の心を開きます。

『なつの あさ』

谷内こうた／文・画
至光社



ただただ少年の心臓のトクトク鳴っているような感覚。その鼓動が理屈抜きの共感を生みます。

『ころべばいいのに』

ヨシタケシンスケ／作
ブロンズ新社



あの頃、ヨシタケシンスケさんの絵本があったら、もう少し心が軽くなったかも。

『いつも だれかが…』

ユッタ・パウアー／作・絵
上田真而子／訳
徳間書店



どんな困難な局面でも、見えない誰かが見守っている。

『なみにきをつけて、シャーリー』

ジョン・バーニンガム／作
辺見まき／訳
ほるぷ出版



小言ばかりのお母さんと海辺で一緒にいても、少女は全く別の空想の世界。シャーリーはまさに、私。